

# ハタケシメジのスギおが粉による菌床栽培と 廃培地を再利用した露地栽培

ハタケシメジ栽培で標準的に使われている樹皮堆肥培地に代わるものとして、①扱い易く、②県内で調達可能な、スギおが粉+米ヌカ+森林土壌を主体とする培地の処方を開発しました。

また、大量生産されているハタケシメジ「彩の子」のビン栽培において排出される廃培地を再利用し、簡易施設や露地・林床などでの栽培方法を開発しました。

## スギおが粉を主とした代替培地

スギおが粉：米ヌカ：山土  
= 10 : 5 : 3.2<sup>※1</sup>  
+0.06%水酸化カルシウム<sup>※2</sup>

代替培地は樹皮堆肥培地に比べ、栽培期間が1.31倍となりますが、収量は1.34倍で、他のきのこの培地と同じ扱いが可能です。

※1 乾燥重量比

※2 生培地重当たり



代替培地



樹皮堆肥培地



ハタケシメジビン栽培で大量に発生する廃培地を再利用



掻き出して25℃以下で10日程度培養



白くブロック化した菌床を土に埋設



秋に、簡易施設でビニール掛け、または湿気の多い林床に設置



1ヶ月頃から収穫でき、廃培地重の2割以上の収穫が可能

左：室内ビニール掛け、  
上：スギ林床に設置

## 殺菌釜・空調施設不要の廃培地利用のハタケシメジ栽培法